



十日市場校舎の生徒たちは合同授業などもあるお陰かとても仲が良いです。放課後、学年を超えて楽しそうに下校する姿を見かけた低学年保護者から「青春を感じました。素敵ですね。」との声が届きました。低学年の子どもからも、保護者からも憧れの高学年の生徒たちなのでした。

\*\*\*\*\*

## \*WOW-DAY バザー&イベント報告

### (7年生)\*

世界各国、特に貧しい国々ではアントロポゾフィーの理念をもって社会的弱者に対する支援の運動が広まっているそうです。世界のシュタイナー・アントロポゾフィー運動の様子を児童生徒たちが知り、自分たちの手で何かしたいと思った時、WOW-DAYの活動を始めることが出来ます。9月29日から11月29日までの二カ月の間に自分たちの発想でカンパを集めるのです。募金方法は様々です。ポピュラーな企画はバザーですが、路上演奏会を開いたり、マラソン大会に出場することでその頑張りカンパしてもらったりすることもあるそうです。

横浜では例年8年生が担当してきた WOW-DAY バザーですが、今年の8年生はすでにクラス劇の準備に入っており、9年生の忙しさは言うに及ばず・・・という訳で、7年生にチャンスが回ってきました。担任としては「あくまでも生徒からの発意、生徒主体の活動でのみ取り組む」と心に決めていました。そして生徒たちには上記のような情報を伝え、しばらく考えてもらう事にしました。シュタイナー教育芸術友の会のホームページから印刷したチラシを翻訳して教室の壁に貼り、1, 2 週間が経ちました。

生徒たちからは、「やりたい」とも「やりたくない」とも反応がありません。

痺れを切らした担任が「やってみる？それともやりたくない？」と訊くと全体からは「どっちでもいい。」という曖昧な返事。では、と一人ずつ指して意見を言ってもらおうと、「やるなら、バザーがやりたい。」「やるなら、身体を使ったイベントでカンパを集めたい。」とどうやら「やること」を前提に話をしている様子。「やりたい」とストレートに言わないのが7年生のクラスカラーなのです。

やっとのことで開催すると決め、あとは生徒たちに任せ、時おり準備の時間を作ってやることにしました。活動の内容は、女子を中心にした「手作り品バザー」と男子を中心とした「腕相撲大会」。男子は木工で鍛えた腕で参加賞にする箸置きを大量生産し始めました。開催一週間前になると商品作りが佳境に入り、休み時間返上で真剣に制作するようになりました。

そして、WOW-DAY 当日。授業が終わると皆いそいそと教室のしつらえを開始。商品陳列と腕相撲の場所とお客様の動線を考えた配置を作ると、9年生英語劇鑑賞を終えた保護者の方や先生方、外部からのおお客様方に、にこやかに対応し始めました。

美しく包装された手作り品を持って次々と腕相撲選手たちと戦うお客様方。みなさんとても楽しそうでした。

午前、午後の2回に分けて行われた WOW-DAY バザー&イベント。お陰様で2万円を超える募金が集まりました。後日ドイツにある「教育芸術友の会」に報告とともに送金する予定です。

7年生は6月にも一度バザーを経験しています。「熊本被災地支援」の目的だったのですが、来たるアドヴェントではその続きをしてみようという意見がまたなんとなく集まり、今はその準備に追われています。

自分たちの創意工夫と働きがどこかで役に立つのだと知った7年生。きっと去年より一回り大きくなっているはずです。

(7年生担任 長井麻美)



## \* Here's that magic moment again!

### (9年生)\*

10月28日金曜日、今年度の9年生英語劇が十日市場校舎で行われました。終了後、会場となったオイルユトミー室は、窓ガラスが真っ白に曇るほどの熱気と暖かな拍手に包まれました。そこには見事に actors / actress となった5人の9年生たちと、教員や保護者をはじめこの劇のために足を運んでくださった方々とで創り上げた、すてきな演劇空間ができあがっていました。

「“Friends” は彼らにぴったりのお話ですね。この題材はどこで見つけたんですか？」と訊かれました。すぐにわかった方もいらっしゃると思いますが、これは『がまくんとかえるくん』(“Frog and Toad”)というお話が元本です。午前中の発表を見た低学年の子どもたちの中からも、「このお話知ってる！」という声があったとのことでした。元のお話をいくつか英語で読み、その中から4つを選び出しました(半分私が無理やり選びました)。そこからアレンジを加えて、5人の friends の話に仕立てあげたというわけです。ところが、その台本を作ってみて、「今の9年生はもう少し難しいものにも挑戦できるに違いない」という思いが湧いてきて、急きよ O・ヘンリーの短編を元にした“After Twenty Years”を追加することにしました。9年生たちはもちろん大喜びで、というはうそですが、こんなに長い台詞は無理と言いつつも挑戦してくれました。けれども、3人の登場人物(しかもそのうちの一人は台詞がとてつもない!)を誰が演じるのかがなかなか決まりません。まず手を上げた一人が、3人のうちの台詞が長くない方の一人を演じることを決めましたが、残りの二人は結局じゃんけんで決まったのです。しかし、天の采配はまさにぴったりの配役となりました!

そこまで決まれば、あとは台詞を覚え、道具を用意し、衣装を考え、できることから始めるしかない! 台本は夏休みに入る前に手渡すことができました。…ところが、9年生はエポックにも新しい学びがたくさんあり、実習で外に出かけていくことも多く、どこまで皆が台本にじっくりと向き合うことができているのか非常に心もとない状況のまま、9月も終わり、10月も刻々と日々が過ぎていきました。28日は一般公開ということもあり、また「フリースクール見学会」ということで学校関係の方々も来られると聞いていて、担当の私の緊張も高まるばかり。また、例年の9年生英語劇は11月末だったのが、今年はひと月早い10月末です。さすがにのんびり屋の私も焦ってきました。大道具の舟を、9年生は即座に作り上げてくれましたが、他の道具は足りているのか、衣装はあるのか…。手作りの警官の帽子は、黒沼先生が見かねて手伝ってくださり、ようやく3日前に仕上がりましたが、肝心のみんなの意気は盛り上がっているのでしょうか?…

10月の最終週に英語のエポックが始まった時には、9年生たちは台詞も完璧ではない人もいれば、声も小さく、演技も適当な感じのところもあって、それでも「何とかかなるでしょ」という雰囲気、あと3日というところまで来てしまいました。このままではどうなってしまうのか?! と思いつめた私は、「明日の通しで満足いく演技ができなかったら前日は放課後6時まで練習!」と彼らに言い放ったのです。すると、「えー! それはやめて!」「無理!」「わかった、じゃあ明日の練習で台詞も完璧に覚えてくるから待

ってて!」と彼らも慌て始め、次の日にはようやく形ができてきた感じでした。しかし、木曜朝にはまだまだ劇としての完成度が乏しく、ひとつひとつのエピソードの落ちがない、と通しを見てもらった黒沼先生からのアドヴァイスを受け、「先生、やっぱり6時までやる?」と9年生たちの方から声が上がりました。直前になって、ようやく彼らの演劇熱に火がついたようでした。

その日の放課後、2回の通し稽古をしながら、私は9年生たちがお互いの演技を見合いながらいろいろな意見を出しあって、劇がぐんぐん良いものになっていく過程を見ることができました。それはまさしく一つのものを皆で、一人ひとりがよいものを出しあって作り上げる、“All for one, one for all”を具現する稀有な瞬間でありました。良いものになってきたから、後は明日の朝練習すればよいのではないかと私が思っても、彼らの方が「もっと練習したい!」と言ってくるほどで、拳句の果ては秋休み中に行われる高等部の集いで行うパフォーマンスの練習まで熱心に行い、暗くなってくるほど熱が入る状況で、結局7時近くになってようやく皆家路に着いたのでした。

そして当日の朝の練習の後、本番を迎えました。午前と午後の2回の公演を行ってみて、劇がさらに進化して、演じる彼らの演技や台詞の言い回しがやる度によくなるのを目の当たりにしました。昨年度の9年生英語劇の時にも、「本当にできるのかと思っていたが、当日は劇が立ち上がったのには驚いた」という感想を書いてくれた9年生がいまいましたが、まさしく今年も劇が「立ち上がる」という「魔法の瞬間(magic moment)」が創出されました。5人の自然な演技が、外国語の劇であることを超えて、演じる側も見る側も同時にその劇の世界に入り込んだという感触を私は舞台の裏から感じることができました。特に午後の部で、台詞を理解して笑ってくれる高学年の子どもたちが見ていた時の方が、その感触は強かったです。笑いあり涙あり、会場全体が一体となった瞬間でした。英語劇をやってみて本当によかった! そう実感しました。

“After Twenty Years”の劇も、長台詞や微妙な心の動きを演じる難しさもありながら、非常に雰囲気のある劇になったと思います。ここでも、5人全員が劇のディテールに工夫をこらすなど、演技以外のところでも協力し、3人の役者たちもそれぞれの持ち味を充分に発揮し、中には絶妙なアドリブもあって、たいへん印象深い劇となったのではないかと思います。たった一度の舞台でしたが、よく演じてくれました。これまでにいろいろなことを体験してきた、5人しかいない9年生クラスが、本当にいいクラスになったなあと思い、担任の黒沼先生と5人の“friends”に心からの拍手を送りたいと思います。

最後に、“Friends”のテーマソングとして選んだ“Moon River”の歌詞を載せておきます。なぜこの歌なのか(単に有名な映画の歌だからというわけではありません)ということがご推測いただけるでしょう。

(英語専科 浜本マヤ)



Moon river, wider than a mile  
I'm crossing you in style some day  
Old dream maker, you heart breaker  
Wherever you're going  
I'm going your way

ムーン・リバー、広大な川よ  
僕はいつの日にか格好良く渡ってみせる  
君は夢を与えてくれ、心を打ち砕きもする  
君がどこに行こうとも  
僕も同じ道を行く

Two drifters, off to see the world  
There's such a lot of world to see  
We're after the same rainbow's end  
Waiting round the bend  
My huckleberry friend  
moon river and me.

二人は世界を見に旅に出る流れ者  
世界にはこんなにたくさん見るべきものがある  
僕たちは同じ虹の端を追い求めるんだ  
それは曲がり角で待っている  
僕のハックルベリーフレンド\*  
ムーン・リバーと僕

\*ハックルベリーは、トム・ソーヤーに出てくる、トムの親友ハックルベリー・フィンを連想させ、「幼馴染」という意味にとれます。また、ムーン・リバーはこの曲の作者であるジョニー・マーサーの故郷の川だということです。



## マルティン祭（1・2年生）

朝から雨模様だったものの、夕方には上がる予報だった今年の11月11日。1年生と2年生の生徒と保護者が参加する「マルティン祭」が行われました。マルティンというのは、キリスト教の聖人であり、もともとはローマ帝国の兵士だった方です。マルティンを語られる上で有名なのが、「マルティンが兵士だった頃、雪の降る中半裸の物乞いと出会い、自分のマントを刀で切り裂いて半分を分け与えた」というお話です。そして、その物乞いが実はキリストであった、とされています。

11月11日は、マルティンの命日にあたり、夕方から子ども達がランタンを片手に一列に並び、歌を歌いながら街を歩く、マルティン祭というお祭りはヨーロッパ各地では誰もが知っているものなのだそうです。

学園では、1・2年生のみが参加する行事で、生徒一人ひとりが作ったランタンを持ち、歌を歌いながら学校の周りを一列になって歩きます。残念ながら今年はお天気が悪く、室内で行われることになりました。下校してから、夕方に再び学校に来ると、お部屋の明かりも落とされ、校内にちらほらと、星形に折られたランタンが置かれていました。小さな光と、周りの人達の気配が、私たちを導いてくれました。全員で移動したオイリュトミー室の真ん中には、ロウソクが一本光り、子ども達が円になって座ると、静かにお話が始まりました。それは「星の金貨」でした。部屋にいる全員がお話に聞き入ります。暗闇の中で聞く、星の金貨は、話の情景が目の前に浮かび上がってくるようでした。

お話が終わると、ライアーの演奏とともに、何人かの先生方が手分けしてロウソクの火を子ども達に分けてくださいました。一人ひとりのランタンに段々と明かりがつかっていきます。

聞こえてくるライアーの一粒一粒の音が、まるで空から星が子ども達のランタンに降ってきているような、そんな光景に見えました。全員のランタンに明かりが灯ると、一列になって歌いながら校内を歩くために移動を始めます。保護者は静かに部屋に残り、子ども達の遠ざかって行く歌声に耳を澄ませます。ヨーロッパでは、街を歩き、お店の前に来ると止まり、歌を歌うそうです。すると、お店の人がお店のものをくれるのだとか。

ランタンウォークを終えた子ども達は教室に戻り、先生方と保護者と一緒に過ごします。1年生はランタンの光を消す前に、担任の横山先生が「ランタンの光を自分の中に移してから、そっと火を消してください」と子ども達に伝え、子ども達は光を取り込むように、自分の胸に手を当ててからランタンの火を消していました。それから、2人の子ども達がマルティンと物乞いの話を再現し、周りの子ども達は歌いながら2人を見守りました。

その後は、2年生の保護者の方々が焼いてくださったパンを、子ども達が半分にして分けてくれて、全員でパンを分かち合いました。分けてくれた子の心の温かさを感じる、おいしいパンでした。

子ども達のランタンを眺めていると、火が灯るまでに影を潜めていたものが、スポットライトが当たったように、想像していなかった一面が浮かび上がってくることに気がつきました。私も、自分の中の光を絶やさず、子ども達に分けられますように。そして、照らし出せますようにと、願った幸せなひとときでした。

（1年生保護者 松山周子）

# インフォメーション

## 公開イベント「親子でむかえる アドヴェントのつどい」

日程：11月27日(日)

時間：10:00～14:30

場所：霧が丘校舎

内容：

- ・クリスマスのお話とライアー演奏  
11:00～ / 13:00～
  - ・ろうそくの森  
10:30～ / 11:30～ / 12:30～  
/13:30～
  - ・1年生の教室公開
  - ・人形劇「かさじぞう」  
11:00～ / 12:00～ / 13:00～
  - ・親子で楽しむワークショップ
  - ・手づくり品販売
  - ・アドヴェント Cafe
  - ・星の金貨 (スクールショップ)
- \*7～9年生の有志がワークショップ等のお手伝いに入ります

※同時開催 学園案内 in 十日市場

- ・教室公開と学園案内
- ・古本&古着マーケット

※最新情報はHPでご確認下さい。



## 2017年度入学説明会 (二次募集)

日時：12月3日(土)[A]10:00～12:00

12月11日(日)[B]10:00～12:30

会場：[A] 霧が丘校舎

[B] 十日市場校舎

対象：入学を希望される保護者

参加費：無料

保育：あり (要事前予約・有料)

内容：[A]「シュタイナー教育とは」  
「教育内容について」

[B]「保護者の学園への関わりについて」

※2017年度に入学をご希望の方は、A、B両方の回に必ずご両親でご出席ください。「入学説明会」[A][B]両方に参加された方にのみ、[B]終了時に入学願書(1,000円)をお渡しします。

※詳細はチラシ・ホームページでご確認の上お申し込みください。

## 茶話会 / 校内見学会

茶話会

11/7(月), 2017年2/11(土祝)

校内見学会

11/18(金),

2017年1/20(金), 2/17(金)

参加費：無料

※日程により時間が異なります。

詳細はHPでご確認上、事前にお申込みください。

## 公開講座「日本の建築史」

③2017年2月7日(火)

時間：10:00～12:00

講師：岩橋亜希菜 (建築家)

場所：霧が丘校舎

料金：2,000円

(NPO会員1,500円)

\*保育はありません

## 大人のオイリュトミー

### Aコース：健やかな体作り

講師：猿谷利加(オイリュトミー専科)

12/5, 2017年1/23, 2/13

### Bコース：音と一緒に体を動かす

講師：大西敬子(オイリュトミー専科)

12/12, 2017年1/30, 2/20

時間：9:30～10:45

場所：霧が丘校舎

料金：1回1,500円 (NPO会員1,300円)

※詳細はHPでご確認の上、事前にお申し込みください。

## 野ばら 21号発行しました

学園での教育実践活動や、その底に流れる考え方などを中心にまとめた紀要書「野ばら」21号が発行されました。1冊600円カラー版3号目。今回の特集は「教育に息づく色彩」です。

是非お買い求め下さい。

※「アドヴェントのつどい」当日のみ、新刊(他カラー版)ご購入の方は創刊号～18号までを半額でご購入いただけます。

## ご寄付ありがとうございます

(順不同・敬称略)

10/21～11/17

加藤洋子、星の金貨、小林直子  
～皆様からのご寄付は大切に使用させていただきます～

## 8年生劇「十二夜」

日時：2017年2月3日(金)・4日(土)

時間：午後

場所：鶴見公会堂

※観劇年齢に制限があります。

詳細・予約方法は12月頃HPでご案内します。ご確認下さい。

## 星の金貨



クリスマスプレゼントに喜んでいただけるお品物をご用意しております。

また、顔の見える作家さんの手作り品 (Mein Baum/編みぐるみ、Tei to Nei/虹染めプレイクロス、木工房のいとど/木のロウソク消し) が好評です。

どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ

e-mail: hoshi-kinka@freeml.com

ブログ

http://hosinokinka.blog100.fc2.com/

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第96号

2016年11月22日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人 横浜シュタイナー学園

https://yokohama-steiner.jp

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします

## お問合せ、お申込み先 横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(びにわ店)当座0130702